

1967

『物語・北海道文学盛衰史』  
(河出書房)

本書は多くの貴重な  
新事実と、新しい考察を  
提出して、  
重要な文献となる  
ものと思われる。  
序文(伊藤整)より

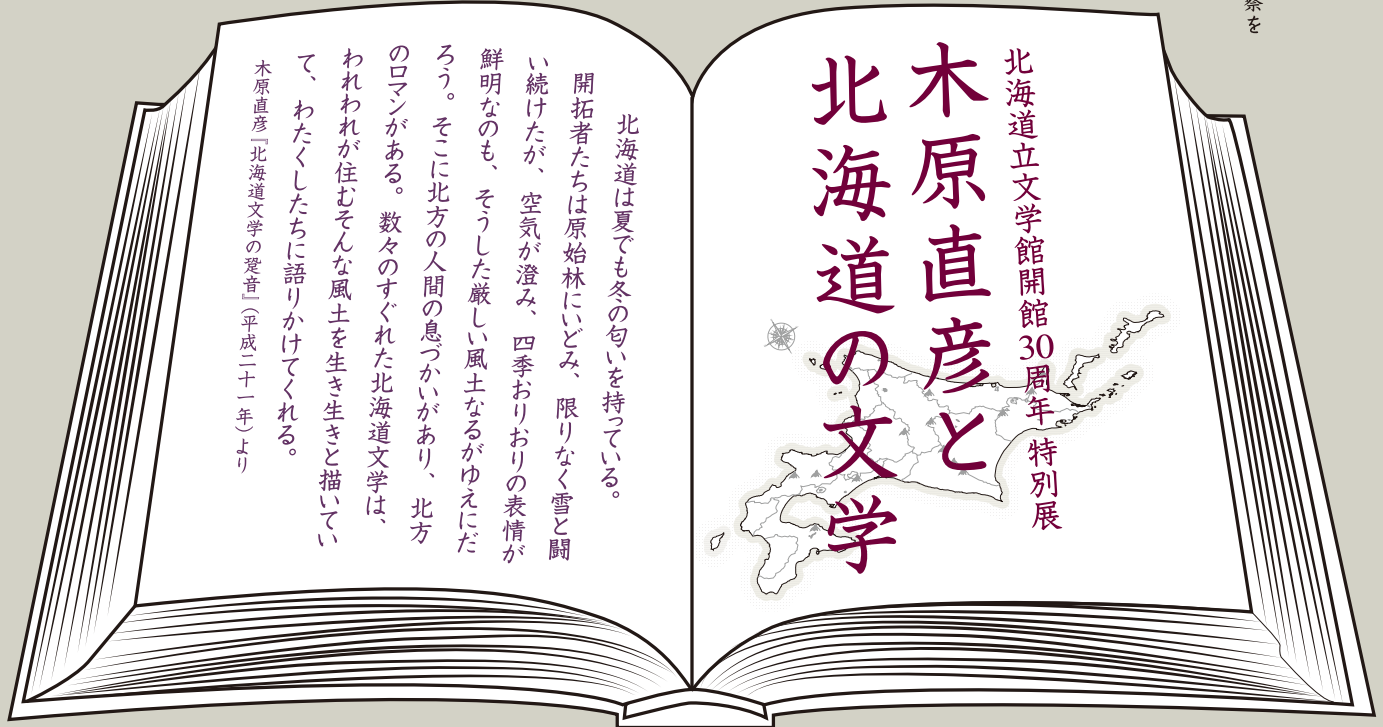


2009

木原直彦  
『北海道文学の<sup>おし</sup>発音』  
(中西出版)



読物として、  
資料として、評論として  
(北海道文学)の発音を聴いて  
いただければ望外の幸である。  
あとがき(木原直彦)より



北海道は夏でも冬の匂いを持っている。  
開拓者たちは原始林にいどみ、限りなく雪と闘  
い続けたが、空気が澄み、四季おりおりの表情が  
鮮明なもの、そうした厳しい風土なるがゆえにだ  
ろう。そこに北方の人間の息づかいがあり、北方  
のロマンがある。数々のすぐれた北海道文学は、  
われわれが住むそんな風土を生き生きと描いてい  
て、わたくしたちに語りかけてくれる。  
木原直彦『北海道文学の発音』(平成二十一年)より

北海道立文学館開館30周年 特別展  
木原直彦と  
北海道の文学

2025年2月1日(土)~3月23日(日)

開館時間：9時30分~17時(入場は16時30分まで)

休館日：月曜休館 ただし、2月24日は開館し、2月25日(火)は休館

観覧料：一般 500(400)円 高大生 250(200)円 中学生以下・65歳以上無料  
( )内は10名以上の団体

学校の教育活動の一環として観覧する高校生等と引率教員、土曜日の高校生等、  
身体障害者手帳等をお持ちの方と引率者、児童・老人福祉施設に入所している方とその引率者、  
生活保護を受けている方は無料となります。詳細は文学館にお問い合わせください。

主催：北海道立文学館、  
公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社  
後援：札幌市、札幌市教育委員会

中島公園

北海道立文学館 特別展示室

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号 Tel. 011-511-7655

<https://www.h-bungaku.or.jp/>



1966

『北海道文学展』  
図録



北海道文学史上の  
画期的こととして、  
一九六六(昭和四二)年秋の  
「北海道文学展」  
の大きな成功がある。\*



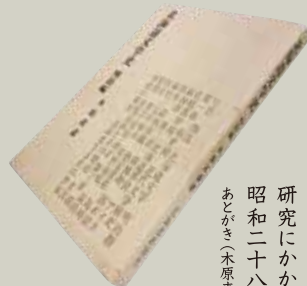
同人雑誌全盛の  
さ中に原田康子の  
「挽歌」(一九五六年)が  
アツという間に全国を席巻し、  
戦後第一期の  
観光ブームをもたらした。\*

1956

原田康子  
『挽歌』  
(東都書房)

1975

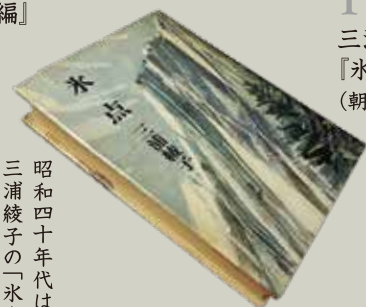
木原直彦  
『北海道文学史 明治編』  
(北海道新聞社)



さしたる自覚もなく  
北海道文学の  
研究にかかわったのは、  
昭和二十八年からであった。  
あとがき(木原直彦)より

1965

三浦綾子  
『氷点』  
(朝日新聞社)



昭和四十年代は  
三浦綾子の「氷点」で  
幕を開けた。\*



1966

北海道文学展でテープカットする伊藤整  
(中央)と更科源蔵(右)。  
司会・木原直彦(後列右端)

\*は木原直彦「北海道文学の発音」より

北海道立文学館開館30周年 特別展  
木原直彦と北海道の文学

**北海道文学史**

昭和30年代に北海道では同人誌活動が盛んになり、1966年に札幌丸井令井デパートで開催された北海道文学展は大成功をおさめ、翌年、北海道文学館が設立します。建物をもたない任意団体でしたが、更科源蔵、和田謹吾、澤田誠一、山田昭夫、小笠原克、西村信、木原直彦らが中心となって、文学資料の収集、文学展の開催、北海道文学に関する書籍の発行といった精力的な活動を重ねていきます。

その結果が1995年の北海道立文学館開館であり、初代館長となったのが木原直彦でした。木原は、先達たちとともに長く北海道文学研究に携わり、数多くの著作を執筆しています。本展では、2025年、開館30周年を迎えるにあたり、木原の眼を通して北海道文学を回顧します。様々な作家や作品についてのエピソードにもお楽しみください。

木原直彦『北海道文学史 大正・昭和戦前編』(北海道新聞社)1976年

佐藤忠良 船山馨『石狩平野』(河出書房)1967年 扉絵原画

伊藤整『雪明りの路』(椎の木社)1926年

本庄陸男『石狩川』(大観堂書店)1939年

有島武郎『有珠無名谷の煙』

木原直彦 北海道立文学館での講演会 2017年4月22日

札幌市資料館玄関に財団法人北海道文学館の看板を掲げる和田謹吾理事長、木原直彦(左から5人目)

小林多喜二『転形期の人々』(国際書院)1933年

〈北海道立文学館開館までのあゆみ〉

**1966年**  
北海道新聞に「物語り・北海道文学盛衰史」連載。  
北海道文学展開催、6日間で約2万人の入場者。

**1967年**  
任意団体北海道文学館設立、  
初代理事長更科源蔵。  
北海道新聞文学賞創設。

**1968年**  
「北方文芸」創刊。

**1973年**  
札幌市資料館2階に北方文学資料展示室ができる。

**1975年**  
『北海道文学史 明治編』(木原直彦)が  
第9回北海道新聞文学賞受賞。

**1979年**  
札幌市資料館1階に書庫、  
資料室、事務室、閲覧室を設ける。

**1988年**  
北海道文学館が財団法人化。

**1995年**  
北海道立文学館開館、初代館長木原直彦。

講演会

「わが小説のこと」  
2月1日(土) 14:00～15:00  
当館講堂(聴講無料)  
講師:小檜山博氏(作家)  
要申込:1月17日(金)  
9:00より電話受付(先着順、定員50名)

ギャラリーツアー

2月15日(土)、22日(土)、3月8日(土)、15日(土)  
いずれも11:00～約40分 特別展示室  
ご案内:当館学芸員 当日自由参加(先着約10名)  
\*観覧券をお求めの上、展示室入り口へ。

ミニ解説&朗読会

学芸員による10分間ミニ解説後朗読  
2月12日(水) 原田康子「冬の雨」、19日(水) 有島武郎「An Incident」、26日(水) 畔柳二美「姉妹」より部分、3月5日(水) 宮本百合子「風に乗ってくるコロポックル」、12日(水) 八木義徳「風景」  
いずれも11:00～約40分 特別展示室  
朗読:公募によるボランティア朗読者  
当日自由参加(各回先着約30名)  
\*観覧券をお求めの上、展示室へ。  
\*詳細は別途HP等でお知らせします。

講座 北海道文学を彩った作家たち

●2月8日(土) 有島武郎 北海道に伝えた「白樺」の精神  
佐藤由美加(当館学芸員)  
●3月1日(土) 船山馨「石狩平野」での復活  
吉成香織(当館主任学芸員)  
●3月9日(日) 子母澤寛 敗残者の夢、そして母と弟  
苦名直子(当館副館長)  
●3月16日(日) 原田康子 作品が放つ魅力  
庄司后伶(当館学芸員)  
各日14:00～約60分 当館講堂(聴講無料)  
要申込:1月24日(金)9:00から電話受付  
(先着順、定員50名)

●常設展のご案内

北海道の文学(通年開催)  
北の大地に育まれた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。  
詳細はお問い合わせください。  
観覧料:一般500(400)円、高大生250(200)円  
\*( )内は10名以上の団体料金。65歳以上、中学生以下無料。高校生は土曜日無料。  
\*詳細はお問い合わせ下さい。

●常設展・文学館アーカイブ

「札幌の映画と演劇 80年代を中心に」  
2025年1月11日(土)～3月23日(日)  
1980年代の札幌における映画や演劇の動向を、当時の資料とともに紹介します。

◎次回・特別展のご案内(予定)

「ファミリー文学館 空を見上げる一太陽・月・星…文学」  
4月19日(土)～6月8日(日) 観覧無料

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号  
TEL.011-511-7655 FAX.011-511-3266  
URL <https://www.h-bungaku.or.jp/>



フェイスブック、X(旧ツイッター)でも情報発信中!

交通案内

- 地下鉄南北線中島公園駅(③番出口)  
または幌平橋駅(①番出口)下車徒歩6分
- 市電「中島公園通」から徒歩10分
- JRバス「中島公園入口」から徒歩4分

施設設置者:北海道教育委員会  
(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 課 011-231-4111)  
指定管理者:公益財団法人北海道文学館

